

## 4 - 2 0 伊豆半島におけるラドン観測 (XIII) Radon Observation in the Izu Peninsula (XIII)

東京大学理学部  
Faculty of Science, The University of Tokyo

前報<sup>1)</sup>にひきつづき、伊豆半島における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1994年11月～1995年11月)を報告する。

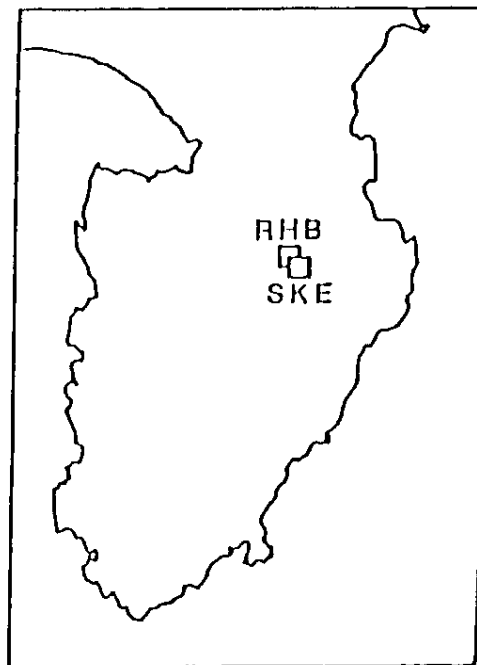
観測点は、第1図に示す中伊豆第1(SKE)、中伊豆第2(RHB)の2地点である。第2図は各観測点における、1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均の変動で、縦軸はこの期間の平均値に対する相対値である。

SKEのラドン濃度は6月に上昇しているが、これは、測定系への水の導入量の低下(9月初旬に改善)に関係していると考えられる。

RHBでは、例年夏期に比べて冬期のラドン濃度は低く、変動も大きい。1995年9月29日から始まった伊豆半島東方沖の群発地震に伴ってラドン濃度の上昇が観測された。

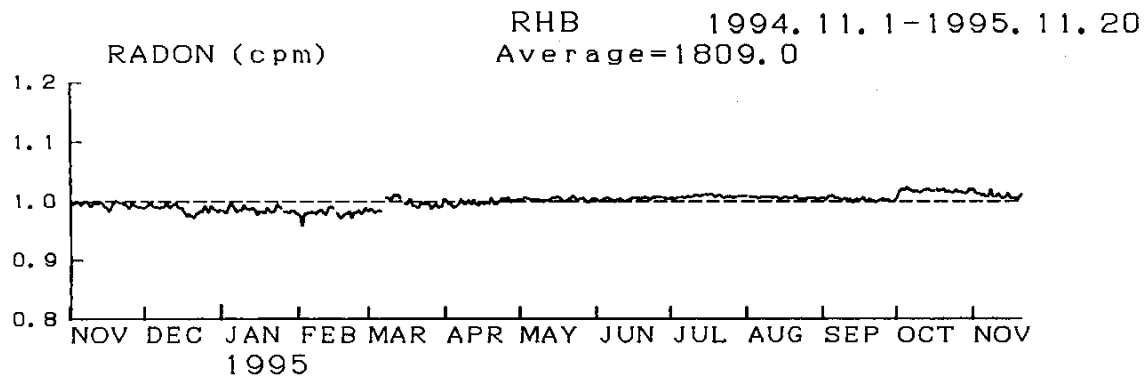
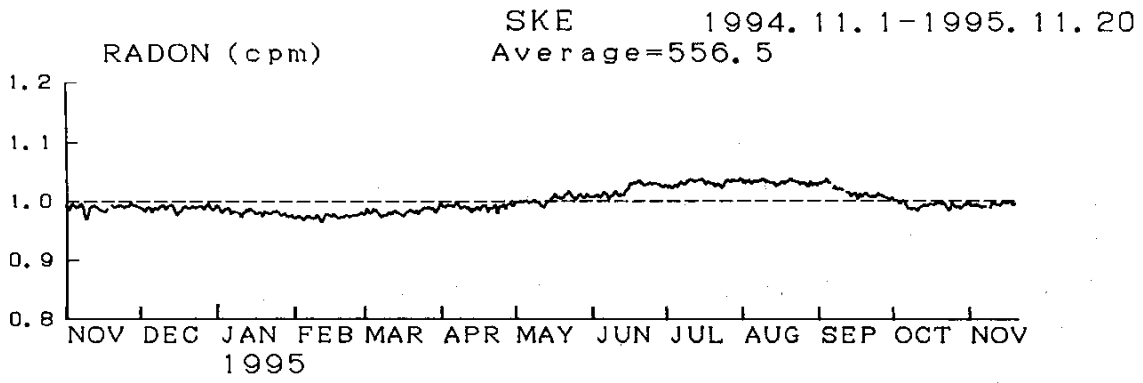
### 参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：伊豆半島におけるラドン観測(XII)，連絡会報，53(1995)，410-411。



第1図 伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Izu Peninsula.



第2図 SKE (中伊豆第1), RHB (中伊豆第2) における地下水中のラドン濃度の変化 (1994年11月~1995年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at SKE (Nakaizu-1) and RHB (Nakaizu-2). (November 1994-November 1995). The data are 24-hour moving average values.